

## 補機冷却水系タンクからの水のオーバーフローについて

定期検査中のところ、10月20日午前10時頃、原子炉建屋4階の補機冷却水系<sup>\*1</sup>タンクから水がオーバーフローしました。この際、オーバーフロー配管とつながっている排水受け3箇所から水がこぼれました。こぼれた水は拭き取るなどして回収しました。なお、こぼれた水以外のオーバーフローした水は、排水を溜めるタンクと枡内に留まりました。

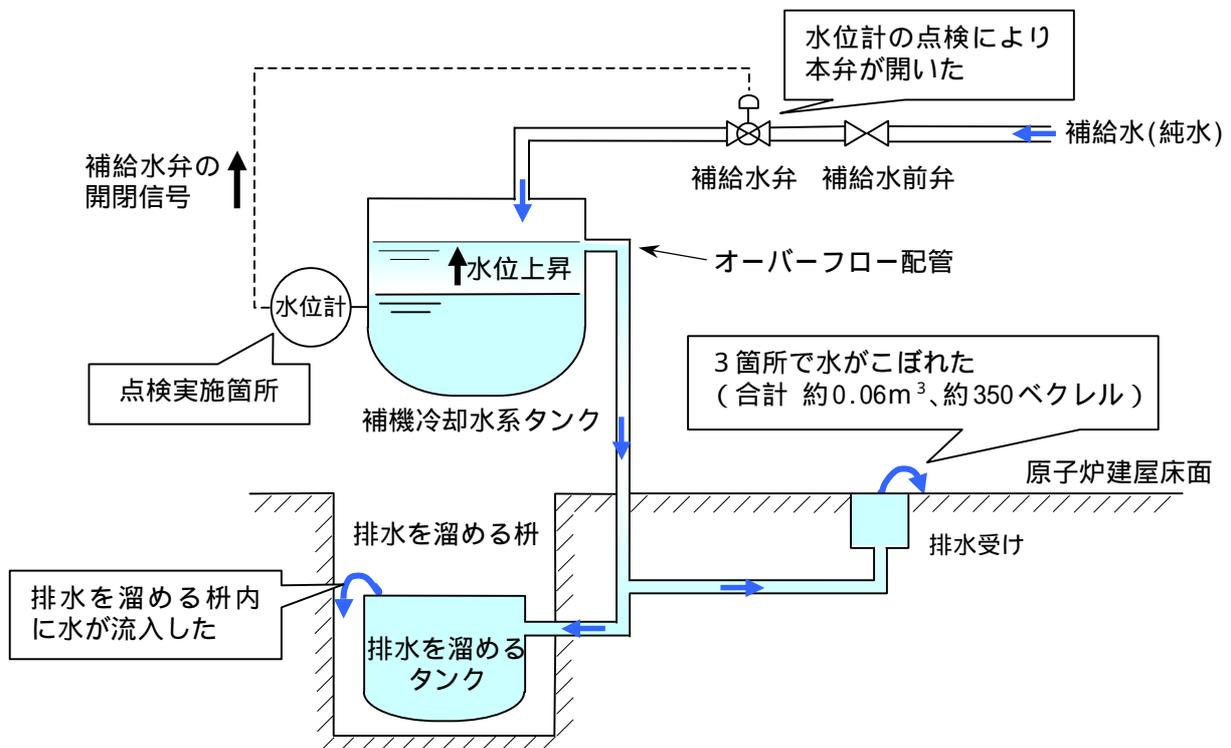
原因は、補機冷却水系タンクの補給水前弁が開いた状態で同タンクの水位計を点検したことにより、水位計の信号と連動して自動開閉する同タンクの補給水弁が開き、補給水(純水)が同タンク内に流入し続けたためです。これは、水位計の点検に先立って閉じていた補給水前弁を、補機冷却水系タンクの水張りのため一時的に開けましたが、その際に、水位計の点検を禁止することを作業票<sup>\*2</sup>に明記しなかったことによるものです。

今後、作業票の変更により点検ができなくなる機器がある場合は、その旨を作業票に明確に記載する等、作業管理を徹底していきます。

なお、外部への放射能による影響はありません。

\* 1 補機冷却水系：機器を冷却するための水を循環させる系統。

\* 2 作業票：工事担当課が作業を行う際に、作業内容を確認するために用いるもの。



系統概略図